

教科	科目	学年	単位数
音楽		1 年	1
使用教科書		副教材	
中学生の音楽 1〔教育芸術社〕			

1. 学習目標

- ・音楽を形づくっている要素などの働きについて実感を伴いながら理解し、表現や鑑賞に生かすことができるようにすること。さらに、音楽に関する歴史や文化的意識を、表現や鑑賞の活動を通して、自分との関りの中で理解できるようにする。
- ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関りについて考えることにより、自分のイメージをもって音楽表現をしたり、音楽を評価したりしながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。
- ・音楽活動を通して、音楽と人々の生活などとの関りに関心をもち、音楽が人々の暮らし、地域の風土、文化や歴史などの影響を受け、社会の変化や文化の発展とともに生まれ育ってきたことを感じ取る。

2. 評価の観点と方法

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に着けている。 「観察」「ワークシート」「小テスト」により生徒のよさや成長の度合いを促し評価する。	音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 知覚・感受の様子を「観察」「ワークシート」を用いて評価するが、「観察」「ワークシート」を同等に用いる場合と、「観察」が「ワークシート」の記述を補完する場合がある。	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな感性を培っている。 活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組む様子を、題材を通じた継続的な「観察」と振り返りなどを記述した「ワークシート」を同等に活用し評価する。

3. 学習内容 [右ページ参照]

4. その他[科目の特徴や学習の注意点など]

「音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりすること」「音楽と生活との関わりに関心をもって、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育むこと」を大切にす。知性だけでは捉えられないことを知性と感性を融合させながら捉えることを大切にする教科である。

	月	単元	授業内容	学習内容及びポイント
	4	校歌を極めよう	「校歌」の歌唱と研究	・歴史ある本校の校歌を調査・研究し関心を深めるとともに表現豊かに歌唱する。

一 学 期	5 6	情景を思い浮かべながら表情豊かに歌おう	「浜辺の歌」 (林古溪作詞、成田為三作曲)	・「浜辺の歌」の曲想と旋律、伴奏、情景豊かな歌詞との関わりを理解する。 ・創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方を身に付ける。 ・リズム、旋律、強弱を知覚しそれらが生み出す雰囲気を感じ取りながら表現を工夫する。
	7	歌曲を深く味わおう	「魔王」(シューベルト)	・「魔王」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解する。 ・「魔王」の音色、旋律(調)、リズム、テクスチュア、形式を聴き取り、それらの働きが生み出す特質やその関わりについて考える。 ・ふさわしい歌唱表現を創意工夫し、演奏や曲に対する批評をしながら音楽のよさを味わって聴く。
二 学 期	8 9	リコーダー三重奏の響きを味わおう	「きらきら星変奏曲」	・アルトリコーダーの基本的奏法を身に付ける。 ・「きらきら星」のリコーダー三重奏の曲想と音楽の構造との関わりを感じ取る。 ・アルトリコーダーの音色や響きと奏法の関わりについて理解する。 ・器楽表現を創意工夫して演奏し、リコーダーアンサンブルに親しむ。
	10	ユニゾンと掛け合いを組み合わせた二重奏曲を作ろう〔創作〕	「二重奏曲創作」	・音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴を理解する。 ・旋律、テクスチュア、構成を理解し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取り、その関わりを理解する。 ・ユニゾンと掛け合いを組み合わせることに興味をもち、創作活動に主体的に取り組む。
	11 12	音楽の多様性を理解してアジアの様々な歌のよさを味わおう	「江差追分」(北海道) 「オルティンドー」(モンゴル) 「カッワーリー」(パキスタン)	・3つの国の音楽の特徴とその特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。 ・3曲の音楽表現の共通性や固有性について自分なりに考え音楽のよさや美しさを味わう。
三 学 期	1	郷土の音楽の魅力を考えよう	「津軽じょんがら節」「エイサー」「草津節」「銚子大漁歌」	・音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりを理解して聴く。 ・郷土の音楽の生活や社会における意味や役割を考え音楽のよさや美しさを味わって聴く。
	2 3	・平調「越天楽」の構造を理解して聴き深めよう	平調「越天楽」(残楽三返)	・曲想と平調「越天楽」の構造との関わりを理解する。 ・音色、速度、旋律、テクスチュア、構造を聴き取り、それらが生み出す特質や雰囲気を感じ取り、その関わりを考えるとともに音楽のよさや美しさを味わって聴く。

